

# 薬王山 宝泉寺報

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

## 施餓鬼会を3年ぶりに開催！

去る11月3日に、3年ぶりに施餓鬼会（せがきえ）が開催されました。「お施餓鬼をきっかけに久しぶりにお墓参りにも来れました！」というお声などもあり、いきいきとした皆さまの笑顔が見れて、こちらもとても感激いたしました。とは言えコロナ対策のため、本堂内のイスが半分以下だったり、いつも大好評のどん汁が出せなかったり・・・もどかしい点もありましたが、皆さまに直接お会いできる喜びに比べたら・・・！

今後なるべく対面での行事ごとにしていきたいと思っておりますので、ぜひぜひご参加ください。でも無理はしないでください。映像配信もしておりますので。（詳しくは裏面をご覧ください）

寺務長 関根

## 葬儀にまつわる四方山話

### 葬儀の心意気

コロナ禍のなか、お葬式の場面で一番変わったのは「参加人数」ではないかと思えます。

以前のような参列者100人以上、なんていうお葬式はもう滅多にありません。コロナ前から家族葬が流行りだして、小さい規模のお葬式は一般的ではあったのですが、感染状況を考えると、近親者、家族のみでのお葬式も致し方ないところではあります。

しかし、それが悪いというわけではありません。亡くなった方と本当に近いものが集まって温かく送る、というのは、お葬式をするのには大変大事なことです。近所の方やお友達には遠慮してもらわなくて、は、というのは残念ですが、近頃は「コロナじゃ仕方ない」とみな納得してくれています。

お通夜の様子も変わり

ました。そもそもお通夜を「省略」されてしまうことが増えました。前々号でも書いたのですが、これは正直に申し上げてもつたいない、というのが私の考えです。亡き人と過ごす最後の夜、思い出を胸に思い起こして、その有り難さをゆつくりと感じることが出来る貴重な時間だと思っております。「いやあ、故人は高齢で友達もいないし」「コロナで呼べないし」「食事も出せないから」とお通夜省略の理由は様々何うのですが、お通夜は別に、よそから来る人のために行うのではないのです。ましてや飲食の接待なんてオマケですから無くたって全然かまわない。最も近しい人で、ゆつくり故人を偲ぶのが大事なことで、できれば、規模や時間にとらわれず、行っ

喪主さんが体調不良で急遽入院してしまつたお葬儀がありました。病室から電話をかけてきた喪主さんは「今夜は病室で亡き人を心から偲びたいと思います。誰もいませんが、お経を読んでいただくことはできますか？」と仰いました。「もちろんです。ご供養はキチンといたします」と言うと、大変喜んでくださいました。お葬儀屋の担当者も「僭越ですが」と遺族の代わりに、お焼香をしてくれました。意義のある時間だつたと思えます。

飾りや支度を調えることはもちろんとても大事なことです。しかしそれ以上に大事なものは、やっぱり心意気。長い時間共に過ごした人を、最後にその儀式なのです。病院のベッドの上で、きつと喪主さんは手を合わせて、亡き人とのご縁を有り難く感じられたことでしょうか。これまで何度か、飾りもなく参列者のいないお葬式を経験しましたが、たつた二人で祭壇に向かつてお経を読んでいると、葬儀に最も大事なものはやはり心意気だな、と感じられて、敬虔な気持ちになります。

参列者千人のお葬式も、ゼロの時も、儀式とお経は全く変わりません。これは先代から学んだ「坊さんの心意気」です。参列者の多い少ないにとらわれず、ご自身と、亡き人のために、お通夜の時間を大事にしてみたらと思えます。 住職

## 法話のコーナー

先頃から盛んに世間を騒がせています。いわゆる新興宗教の問題。僧侶の立場から言えば、戦後興つた新興宗教のほとんどは「集金」を目的とした、人の弱みにつけ込んだ「詐欺集団」といつていいと思います。彼らの目的は金集め以外の何物でもなく、その詐欺の口口に宗教的な言葉や思想を利用しているに過ぎないのです。

最も顕著なのが霊感商法というやつで、曰く「先祖の霊が祟るから病気になる」「事故に遭う」だからそれを避けるために「お守り（壺など）を買え」と来ます。この教えに従わないと、地獄に落ちるのだ、悪魔に取り憑かれるので、おおよそ冷静なとき

には荒唐無稽、そんな馬鹿な、と突き放せるのですが、こんどは自分だけでなく、家族や孫に危険があるぞ、それでもいいのか、などと言ひ出しこちらを焦らせます。万々が「一にも大切な家族に危険が及ぶぬように」と、優しい人ほど購入せざるを得ないようになっています。さらに今度は、教祖には病氣や事故を防ぐ力がある、その教祖なり幹部なりに気に入られれば幸せになれるぞ、そのためには献金して「信仰の証」を見せる必要がある、として高額な献金を求められるのです。私たちが根源的に抱えている「未知なるものへの畏れ」を悪

用し、恐怖心を煽ってお金を出させるのが彼らの手口です。

はつきり申し上げておきますが、「先祖のたたり」などありません。また様々な災難を事前に察知し、ましてや避けることなどできません。世の様々な出来事を導くのは積み重なつた偶然や、縁の繋がりによるもので、その偶然や縁を作っているのは私たち「生きている人間」です。生きている人間同士の行いだけが、世の中の構成要素なのです。

病氣や事故はだれにでも起こるでしょう。死はだれにも訪れます。人生の災難は避けたいものではないけれど、そうはいかないのが、命在るものの宿命です。それをコントロールすることが出来る超人がいるならば、なぜ大震災で何万人も死ななければならなかつたのか、問い詰めてみたいものです。どうして口車に乗ってしまうのか。それは「悪い出来事を避けたい」と

いう「私のわがままな心」が、そうさせるのでは無いでしょうか。

本来の宗教は心の安らぎに至る道筋を示すものです。仏教では、すべての人に共通する「生老病死」の苦しみを乗り越えて生きる心の有り様を説いていきます。ですからその教えは生きている我々にこそ意味があるのです。お釈迦様は「生きていると様々な苦しみがある。その苦しみを避けようとするのは愚かなことだ。災難は身分の貴賤、財産の有無に関係なく訪れる。また神を信じていようといまいと平等に降りかかる。だから苦を見つめ、苦を考えよ。避けられぬ苦しみに遭つても揺るがず落ちついて生きられる心を養え。我が儘な心（煩惱）を滅し、日々安心して過ごせる心を獲得せよ」と仰っています。

目に見えぬ、ありもしない祟りに振り回されるよりも、心の中の「わがまま」を自分自身でコントロールできるようにしないでください。宗教とはその方法を示すところに意義があるのです。

## 令和五年 年忌表

令和四年に亡くなった人は	一周忌です
令和三年に亡くなった人は	三回忌です
平成二十九年に亡くなった人は	七回忌です
平成二十三年に亡くなった人は	十三回忌です
平成十九年に亡くなった人は	十七回忌です
平成十三年に亡くなった人は	二十三回忌です
平成九年に亡くなった人は	二十七回忌です
平成三年に亡くなった人は	三十三回忌です
昭和六十二年に亡くなった人は	三十七回忌です
昭和五十六年に亡くなった人は	四十三回忌です
昭和五十二年に亡くなった人は	四十七回忌です
昭和四十九年に亡くなった人は	五十回忌です

年忌にあたる仏様がおられましたら、ご法要を営みましょう

# 惠海日記

えかいにっき

先日のお施餓鬼会を以て年内の大きな行事を全て無事に終える事が出来ました。あんなに大勢の方の前で沢山の和尚さんと一緒にお経を読むというのも随分久しぶりでした。普段の法事と同じ様に、お参りの方が多からうが少なからうが一生懸命にお経を読むというのには当たり前の事でありませんが、それでも目の前に沢山の方がおられると言うのは嬉しく、また力が入ってしまうものでありました。皆様ご存じの様にお盆会、お彼岸会、お施餓鬼会とコロナ禍以来配信にて法要の様子をお届けして参りました。日頃お参り先でも「配信いつも見えますよ」と言ってお参りの方が、住職や職員さん達と共に暗中模索を続ける日々の中で大変な励みになりました。お施餓鬼を終えて久しぶりに接心庵へ帰ってみると見慣れぬ子猫が。病院へ連れて行ったりとこちらも大忙しでした。7年前に19年間飼っていた猫を亡くした時に、もう動物は飼うまいと思っていたのですが、気持ちとは裏腹に次から次へと野良猫が居つく様になってしまいました。メンバーの入れ替わりを続けながら今も5匹の猫がお寺の境内でのんびり過ごしてあります。今年に入ってボス猫が姿を消したのですが、お目付け役不在になった事により猫同士の喧嘩が絶えなくなりまし

た。猫社会も簡単では無いようです。不思議なもので、1匹減ると1匹増える様な状態で悲しむ暇も与えてくれません。猫同士の情報網で「あそこに行けば餌がもらえるらしい」とでも広まっているのでしょうか。

新入り子猫の成長は早いもので、毎週お寺に帰る度に大きくなっていきます。餌をあげていけば情も移るもの。家の者を見ると駆け寄ってくる様になり、お寺へ帰る際の楽しみの一つになりました。宝泉寺の猫も大変人懐っこいですが、是非うちの新入りにもこの子の様にお客さんの応対が出来る様になって頂きたいと思っております。ペットと云うのは亡くした時、姿を消した時は寂しいものではありますが、寂しい悲しいと感じるといふ事はそれだけ一緒に過ごした日々が楽しかったからであると感じました。願わくはいなくなつたボス猫もどこかで楽しくやってくれていると良いのですが、今後来るものは拒まず、姿を見せてくれるうちに精一杯可愛がってあげたいと思う次第であります。しかし毎年この年末の寺報で書いておりますが今年も大掃除が控えており、例によつて日々の掃除もすっかり出来ていない有様であります。毎年学習しない男ではあります、猫をかわいがる前にまずは大掃除しつかりと努めてまいります。皆様もどうか良い年末をお過ごしください。



## 寺務長通信

前回の寺報でご挨拶をさせて頂いた、今号より正式に一筆書かせていただくことになりました。寺務長の関根です。

お寺で働きはじめて早くも6ヶ月が経ちます。が、どちらかと言うと「早くも」というよりも、「まだ6ヶ月しか経ってないのか」と、何年も経過したかのような感覚を、強く感じます。年々時が経つのを早く感じているにも関わらず(笑) エンジンの付いた機器を使用したお寺掃除、霊園での草取り業務、お寺で使用する器具の補修等、以前の仕事では経験

して来なかったことを新たに沢山経験し、非常に濃い時間を過ごしているからだと思います。ここまで自分たちで作業したり修理したり...だとは思っておりませんでした(笑)

日々同じく過ごすのでは無く、新しい事を体験し、出来る事が増えるというの、幾つになつても良いものだと感じる今日この頃です。さて、補修といえば、お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、お寺から霊園管理事務所方面へ上がる階段手すりを塗り直しました！(写真①)

こちらはご住職が粉まみれペンキまみれで陣頭指揮をとり、何日も掛けて完成。私は猫の手くらのお手伝いが出来たかどうか...

こちらにも、ご利用者さまよりご指摘をいただきまして、霊園の1区から特別区方面へ上がる階段の手すりも、お子様などの転落防止のために改善いたしました。(写真②)



写真②



写真①

すから(笑) ご指摘いただきましたご利用者様、誠にありがとうございました！ 寺務長 関根

## 日々もこもこ

お寺アヒルの「と金ちゃん」にお嫁さんが来た！



「歳年下」シャリ子さんです！

## あいうえお用語辞典

{ね} 涅槃



仏教における修行上の究極目標。煩惱の火が吹き消された状態の安らぎ、悟りの境地。全ての束縛から離れた状態の事を言う。また、生命の火が吹き消されたということ、人が亡くなった様をいう事も。

## YouTube 宝泉寺チャンネル！

宝泉寺の行事と法話が見られるYouTube 宝泉寺チャンネル！ 過去行事も見られます。是非ご覧下さい。



我が輩はニヤンである。



お寺は寒いのであまり外には出ないニヤン。ゴハンを食べて寝るのが一番！

## 霊園管理事務所から 霊園だより

師走を迎えなにかとお忙しい中とは思いますが皆様いかがお過ごしでしょうか。本年は久しぶりに、お盆とお施餓鬼は檀信徒様にお集まりいただいた。世間一般においても行事や旅行などで外に出る機会が段々と増えてきているようです。

例年通り管理事務所では、お花・線香をご用意してお待ちしております。また、お電話でもご用意いただければ、供花1500円、墓地掃除(お石塔拭き5000円、お石塔クリーニング(55000円)など)も承っておりますのでお気軽にお問合せくださいませ。

## オススメ図書

「オギャーでいいのだ はなれ和尚の好日談」著者西村宗斎和尚とは布教師試験の同窓生。年も修行歴もずつと上なのにとっても親しくしてもらいました。その西村和尚は令和二年に胃がんで亡くなりました。とても残念なりました。とても残念な生前の法話原稿と、地元新聞に掲載されたインタビュー記事を、お師匠さんと奥さんがまとめたのがこの本です。私と同じく「難しい話はキライ」という布教師だったので、肩のこらない洒落なお話がいっぱい載っています。最後に会ったとき私が「長生きしようぜ」と言ったら、「うん」と答えたその声忘れられませぬ。

西村宗斎著 西日本新聞社 ￥1400

※住職がまとめて購入してあります。ほしい方はお寺まで。

